

「アテネを駆ける」

(第五十二回)

いま、アテネオリンピックが開催中だ。テレビにかじりついて見る人も多いだろう。今回の五輪は準備が遅れ、関係者は心配した。その二因が、工事で土地を掘り起こすと出てくる様々な遺跡。歴史の街であるから当然である。

明後日には女子マラソンが行われ、日本代表の野口・坂本・土佐各選手に期待したい。そもそも、マラソンの起源は、紀元前490年のマラトンの戦いだ。ある伝令兵が戦場のマラトンから約40キロの道をひた走り、アテネ城門によく到着。「喜べ、我軍勝てり」と戦勝を告げ、そのまま卒倒して絶命したと。ただ歴史学者の検証では、史実より伝説であるうとされている。

その伝説の日を太陰太陽暦

健康のススメ

板東 浩

で計算し直すと、9月12日ではなく8月12日になると、先日のニュースが報じていた。当時の兵士も、この暑い8月のアテネを駆けたのであろう。

今回のマラソンコースは起伏があり、気温も高く、過酷なレースになるはず。条件が厳しくコンディションヨロゲが難しい中で、選手が命をかけて競い合う。この点が、医師でありアスリートの一人でもある筆者の気掛かりなところである。

さて、ここで、暑さを吹き飛ばすような小咄を一つ。「五輪の準備中、アテネの地中深くから、マラトンの戦いの頃に作られたこの壺が発見されて、何と数億円という値打ちなんだ!」「どうして本物つてわかるんだ?」「だって、壺の表面に『紀元前490年に製作』と、ちゃんと書かれているだろう!」

(医学博士・内科医師)